

志免町の在宅医療を担う多職種連携研修会

平成 26 年度～平成 30 年度

平成 26 年度

平成 26 年度は、「町内の医療・介護関係者と顔なじみになり、それぞれの職種の仕事を理解する」ということをテーマに研修会を開催しました。



■講演会

テーマ：志免町地域包括ケアシステムをみんなでつくろう！第1弾
超高齢社会、みんなで渡れば怖くない！

講師：長尾 和宏 医師（兵庫県尼崎市で在宅医療を推進されている開業医）

在宅医療推進の実践を通して、最期まで住み慣れた地域で生活していくための本人・家族の心構えや、医療・介護・地域・行政などあらゆる機関の連携や役割について講演いただきました。

2025 年に向け、「最期まで安心して、住みよいと感じる町になることを目指していきたい」と思いを一つにすることができました。



平成 27 年度

平成 27 年度は、地域包括ケアシステム構築に向けてどう取り組むのか、事例を通して考える研修会となりました。



■講演会

テーマ：志免町地域包括ケアシステムをみんなで作ろう！第2弾
超高齢社会をどう生きる！？

講師：NPO 法人孤立防止センター理事長 速水 靖夫氏
公益財団法人さわやか福祉財団 阿部 かおり氏

福岡市の見守りダイヤル委託事業の活動より、孤立死やセルフネグレクトの実際を踏まえ、予防や対策について講演いただきました。

また、地域包括ケアシステムの構築に向け、医療・介護・地域・高齢者・行政・地域包括支援センターがそれぞれの立場から現状と課題についてパネルディスカッションを行いました。

地域や住民、関係機関が連携することの重要性や、これからのまちづくり（地域包括システムの構築）について考える機会となりました。



平成 28 年度

平成 28 年度は、事例を通してそれぞれの職種の役割と具体的な連携の仕方について考える研修を開催しました。



■講演会

テーマ：志免町地域包括ケアシステムをみんなで作ろう！第3弾

～あなたは、誰とつながっていますか？～

講師：にのさかクリニック院長 二ノ坂 保喜 医師

東区町内会福祉推進委員 堤 京子氏

在宅ホスピスケアの実践を通して、「在宅医療は本人の意思や家族の思いと在宅チーム（地域の医療、看護、福祉関係者、ボランティアの地域の方など支援のネットワーク）の工夫があればできる」と講演をいただきました。

また、東区町内会にて行われている見守りネットワーク活動の具体的な取り組みについて報告いただき、在宅医療の具体的な状況や、ほかの地域での活動についてなど、活発な意見交換が行われました。



平成 29 年度

平成 29 年度は、地域包括システム構築に向けて、医療・介護の専門職に何ができるかを検討する研修会となりました。



■講演会

テーマ：志免町地域包括ケアシステムをみんなで作ろう！第4弾
～医療、介護、地域、志免町でつながればなんとかなる～
講師：厚生労働省老健局総務課課長補佐 石井 義恭氏

地域包括ケアシステムについて説明いただき、「地域包括ケアシステムは高齢者のためだけではなく、次の世代である子どもたちのためでもあり、すべての住民のための地域づくりの機能である」という話をしていただきました。

また、多職種連携研修会に参加されている医療・介護の専門職のみなさんに、「もっと地域住民とつながりあいたい」というメッセージを発表していただきました。



講演会参加された住民の方々からは、

- ・もっと専門職のことを知りたい
- ・もっと詳しく話を聞きたかった
- ・身近なところに専門職がいると知って安心した などの感想がありました。

今後の多職種連携研修会での活動に生かしていきたいと思います。

平成 30 年度

平成 30 年度は、「志免町地域包括ケアシステムをみんなで作ろう！講演会」で得られた地域の声を活動にどう活かしていくのかを検討する研修会となりました。



■講演会

テーマ：志免町地域包括ケアシステムをみんなで作ろう！第5弾

医療・介護・地域～志免町であたりまえにつながるために～

講師：牧田総合病院地域支えあいセンター センター長 澤登 久雄氏

「まちづくりのために今、自分たちができること～おおた高齢者見守りネットワークの取り組み～と題して講演を行っていただきました。大田区では、当初、「みまーも」という高齢者の見守りネットワーク作りから始まった取り組みが、それを進めているうちにいつしか高齢者の見守りだけでなく、自ら SOS の声を上げられないすべての人を対象とした大田区全体の地域共生社会のまちづくりへと進化していったとお話がありました。そして、地域共生社会実現のためのキーワードは「社会参加」であり、どんな状況下でも地域にその人なりの社会参加の場があって、支援が必要な人を温かく見守り、支え合うネットワークを構築していくことが、その人が地域とつながり合って、自然と SOS が出せる社会になっていくとご講演いただきました。

講演会の後半には、志免町の医療・介護の専門職と地域が連携して行っている「おでかけ保健室」など多職種連携の取り組みや、町内の地域住民によって行われている居場所活動の紹介を行い、志免町でも、住民、そして様々な機関がつながり合って、誰もが輝く住みよいまちを目指して、まちづくりを行っていることを会場全体で共有しました。

